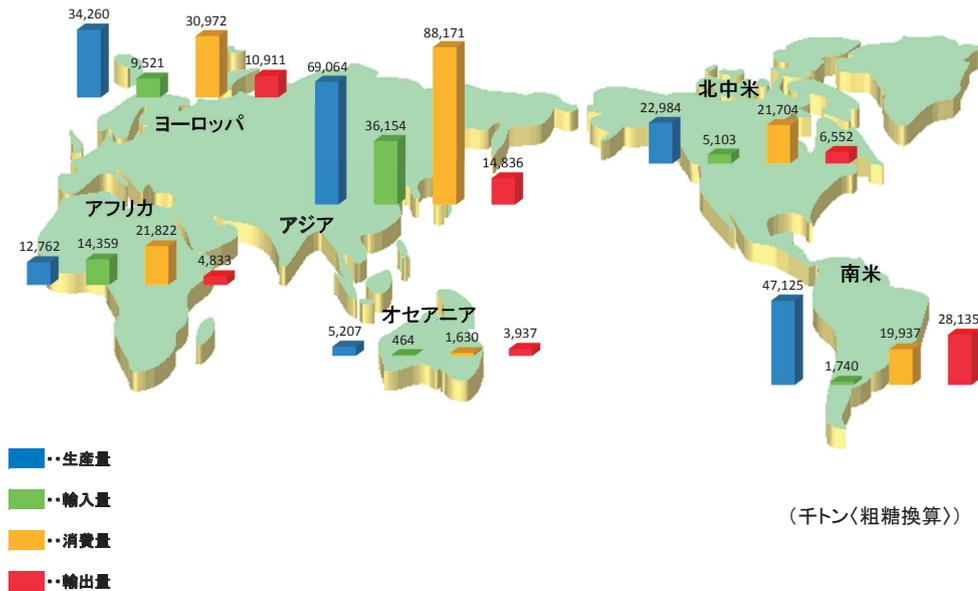


砂糖の国際需給

調査情報部 佐々木 由花

1. 世界の砂糖需給（2017年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2017」
 ※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社

注1：年度は2017年10月～翌9月。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	35,477	109,012	27,349	109,390	32,516	29,932	27.4
1994/95	36,020	116,084	33,328	114,963	33,905	36,564	31.8
1999/2000	54,618	134,332	38,747	130,126	40,070	57,501	44.2
2004/05	65,620	141,016	46,976	144,649	50,021	58,942	40.7
2009/10	60,045	158,448	57,159	162,342	57,166	56,144	34.6
2013/14	74,274	181,485	58,464	175,774	59,109	79,340	45.1
2014/15	79,340	180,710	58,811	178,746	59,673	80,442	45.0
2015/16	80,442	174,221	66,433	180,275	69,299	71,521	39.7
2016/17	71,521	178,449	62,144	180,197	64,062	67,855	37.7
2017/18 (2017年9月予測)	67,586	191,794	61,212	183,953	63,637	73,002	39.7
2017/18 (2017年12月予測)	67,855	191,402	61,799	184,236	63,662	73,158	39.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, December 2017」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001644.html

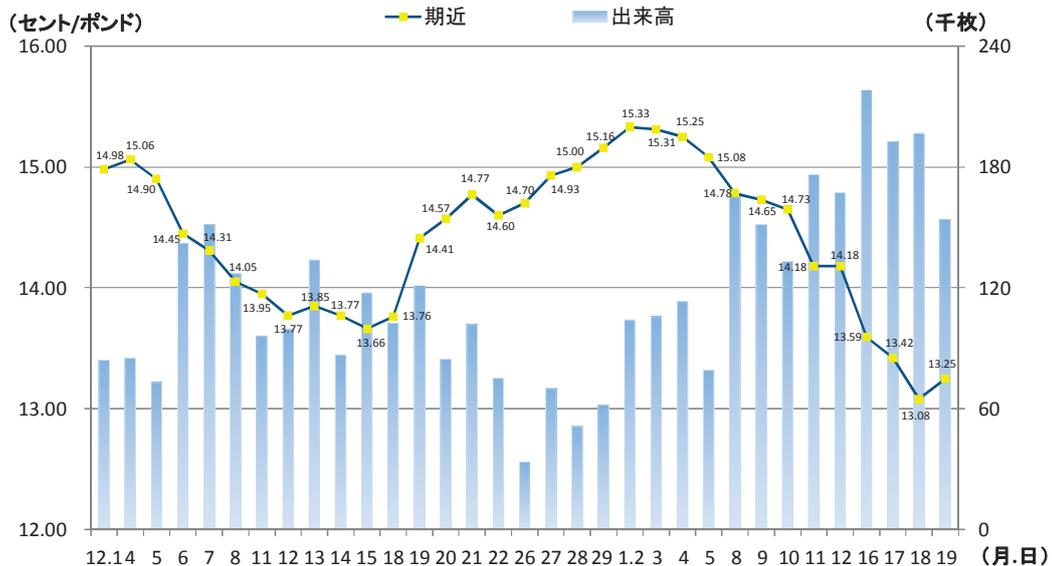
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001645.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（12/1～1/19）

～おおむね1ポンド当たり14～15セント台で推移も、供給過剰予測などから同13.08セントまで下落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）

ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2017年12月の推移を見ると、石油輸出国機構主導の協調減産延長を受けたエネルギー相場の上伸やブラジル通貨リアルが米ドルに対し高値で推移したことなどが押し上げ要因となり、4日に1ポンド当たり15.06セントの値を付けた。その後は、インドやEUなど主要生産地域における増産予測に加え、パキスタンの堅調な輸出などによる世界市場の供給過剰予測から続落し、12日には同13.77セントまで下落した。13日には、ブラジル議会上院が、今後数年間にバイオ燃料利用を増進させる法案を可決したことが押し上げ要因となり、同13.85セントへ小幅に反発したが、引き続き世界の砂糖需給が緩むとの予測や、リアルが対米ドルで安値に推移していることが押し下げ要因となり、15日には同13.66セントまで続落した。しかし、中国による砂糖の輸

入需要の増大見込みやブラジルのエタノール生産の増加見通しなどが押し上げ要因となり、21日には同14.77セントの値を付けた後、29日には同15.16セントの値を付けた。

1月に入ると、2日は同15.33セントまで上昇したものの、EUやアジア地域の増産見通しが押し下げ要因となり、11日には同14.18セントへ下落した。その後も、主要生産国タイのサトウキビ収穫量が過去最高水準と見込まれていることや、ブラジルで政府が米国産エタノールに対する輸入関税の撤廃を検討していることを受け、サトウキビのエタノール仕向け割合が減少し砂糖生産が増大するとの見通しから、世界的な供給過剰が予想されたため、18日には同13.08セントまで続落し、19日は、同13.25セントの値を付けた。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年1月時点予測）

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：874万ha（前年度比3.4%減）
生産量：6億3560万トン（同3.3%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4080万トン（同0.7%増）
輸出量：2870万トン（同0.1%減）

2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2018年1月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、874万ヘクタール（前年度比3.4%減）とやや減少し、生産量は、6億3560万トン（同3.3%減）と見込まれている（表2）。

しかし、砂糖生産量は、4080万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、同0.7%増）と前年度並みが見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、世界的な輸入需要が弱まると見込まれ、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注1）}が発表した2017年4～12月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、多雨の影響から、5億8339万トン（前年同期比1.5%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は、3582万トン（同1.7%増）とわずかに増加した。エタノール生産量は、2522万キロリットル（同1.2%増）とわずかに増加した一方、輸出量も含めたエタノールの販売量は、1999万キロリットル（同1.9%減）と

わずかに減少した。含水エタノール^{（注2）}の国内販売量は、価格が上昇したものの、1156万キロリットル（同0.2%増）と前年度並みとなった。

また、政府は2017年9月に開始したエタノール輸入に対する20%の関税^{（注3）}について、撤廃する可能性を示唆した。この背景には、ブラジル国内でガソリン価格が上昇し、エタノール需要が高まる中、エタノール供給が逼迫^{ひっぱく}しつつあることがある。

現地報道によると、南米南部共同市場（メルコスール）とEUの自由貿易協定（FTA）の交渉妥結は、2019年へ持ち越される可能性が高まっている。これは、両者の政治的な事情によるもので、EUでは、議会選挙の結果、現政権の影響力が弱まるドイツに代わり、交渉に消極的なフランスが影響力を強める一方、南米でも、ブラジルとパラグアイが、大統領選挙を控えて4月以降内政に注力することが見込まれているため、双方の合意が早急に形成されなければ、交渉は一時的に休止されるとの見方がある。同FTAでは、EUは、粗糖については、10万トンの関税割当（枠内税率は現行のCXL割当枠^{（注4）}と同率（1トン当たり98ユーロ〈1万3328円〈12月末日TTS：1ユーロ=136円〉））を導入し、エタノールについては、6年以内に60万トンの関税割当を導入し、このうち40万トンは化学工業向けとなるとみられていた。これに対し、UNICAは、粗糖の市場アクセスが改善されない場合、ブラジル砂糖産業は十分な恩恵を受けることができないと非難していた。

また、新たな再生可能エネルギー法（RenovaBio）が2017年12月26日に成立した。同法は、現行27%のガソリンへの無水エタノールの最低混合率を、2022年までに30%、2030年までに40%へ引き上げることなどが盛り込まれており、2019/20年度までに施行されるとみられている。これにより、政府は、国内のバイオ燃料生産および利用を促進し、パリ協定に基づく温室効果ガス排出量の削減を目指している。

(注1) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注2) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料とし

て利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

(注3) 政府は2017年8月23日、エタノール輸入に対し、年間60万キロリットル（四半期ごとに15万キロリットル）の無税の関税割当を設けるとともに、これを超過して輸入されるエタノールに対しては20%の関税を課すことを決定した。同関税は、エタノール在庫量の低下に伴い2010年に停止して以来の再導入で、2年間実施された後、見直しが見込まれていた。同措置は、国内のエタノール生産量の減少やトウモロコシの国際価格の下落などにより米国からのトウモロコシ由来のエタノール輸入量が急増している状況を受け、UNICAや北東部の砂糖・エタノール製造企業などが、以前から政府へ実施を要請していたものである。

(注4) 粗糖輸入国であったフィンランドなどのEU加盟に当たり協議、合意の下に設定された関税割当て、対象は、精製糖製造用の甘じゃ粗糖（ただし、インドはHSコード1701台のすべての品目）。

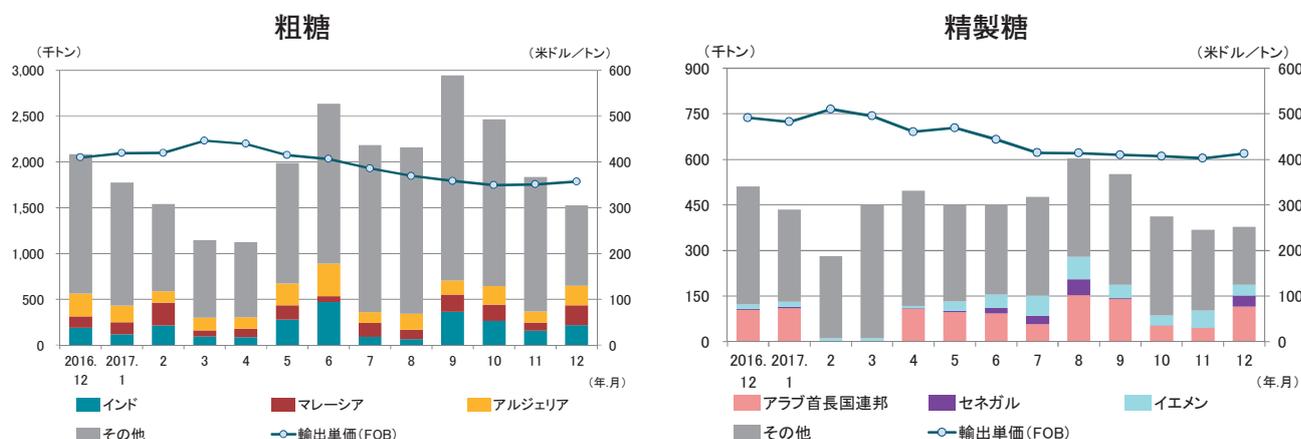
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	9,004	8,655	9,049	8,839	8,739	▲ 3.4	
サトウキビ生産量	634,767	665,586	657,184	647,626	635,600	▲ 3.3	
砂糖	生産量	37,313	35,194	40,534	40,800	40,800	0.7
	輸入量	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,400	11,800	11,700	11,900	11,900	1.7
	輸出量	24,666	25,124	28,740	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,543	813	906	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	20.5	6.9	7.7	9.3	9.3	20.0

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018]

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：498万ha（前年度比5.0%増）
生産量：3億3769万トン（同10.1%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2720万トン（同23.1%増）
輸入量：200万トン（同25.0%減）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は3億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている（表3）。

砂糖生産量は、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、2720万トン（同23.1%増）と3年ぶりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、生産量が増加することから、200万トン（同25.0%減）と大幅な減少が見込まれている。

インド製糖協会（ISMA）によると、2017年10～12月の砂糖生産量は、精製糖換算で1033万トン（前年同期比26.1%増）と大幅に増加した。このうち、マハラシュトラ州では382万トン（同50.8%増）、ウッタルプラデシュ州では338万トン

（同26.2%増）といずれも大幅に増加し、カルナタカ州では162万トン（同4.8%増）とやや増加し、グジャラート州では37万トン（同2.2%増）とわずかに増加した（図3）。

ISMAが2017年11月下旬に発表した2017/18年度の砂糖需給見通しによると、砂糖生産量は、精製糖換算で2510万トン、砂糖輸入量は29万トンと見込まれている。

現地報道によると、中央政府は2017年12月19日、貿易業者に対する砂糖の保有在庫数量の上限の設定について、国内流通の円滑化のため、即時撤廃すると発表した。同措置は12月末の終了が検討されていたが、2017/18年度の砂糖生産量が増加し、国内供給量が需要量を満たすと見込まれることから、前倒しで終了した。また、一部報道によると、同政府は、砂糖の輸入関税を2017年7月上旬に40%から50%に引き上げたが、国内砂糖価格の下落を防ぐため、さらなる引き上げを検討している。

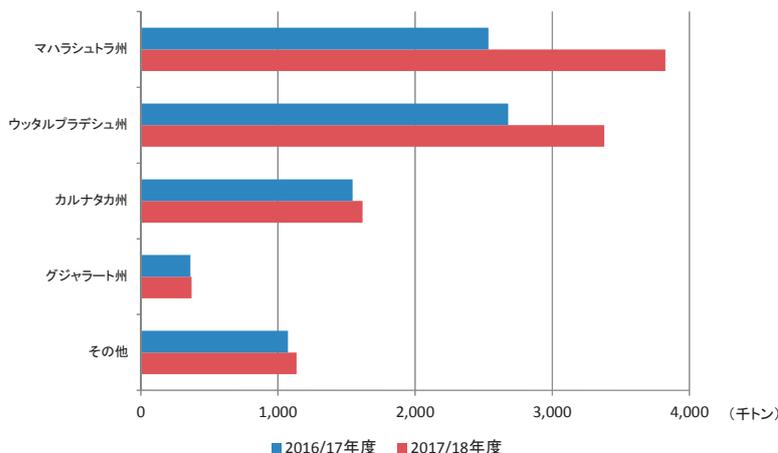
表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	5,060	5,055	4,739	4,978	4,978	5.0	
サトウキビ生産量	362,333	358,891	306,720	337,690	337,690	10.1	
砂糖	生産量	30,616	27,372	22,100	27,200	27,200	23.1
	輸入量	1,303	1,904	2,665	2,000	2,000	▲ 25.0
	消費量	27,842	27,010	26,630	27,500	27,500	3.3
	輸出量	2,608	4,105	2,249	1,500	1,500	▲ 33.3
	期末在庫量	9,692	7,852	3,738	4,025	3,938	5.3
	期末在庫率	34.8	29.1	14.0	14.6	14.3	2.0

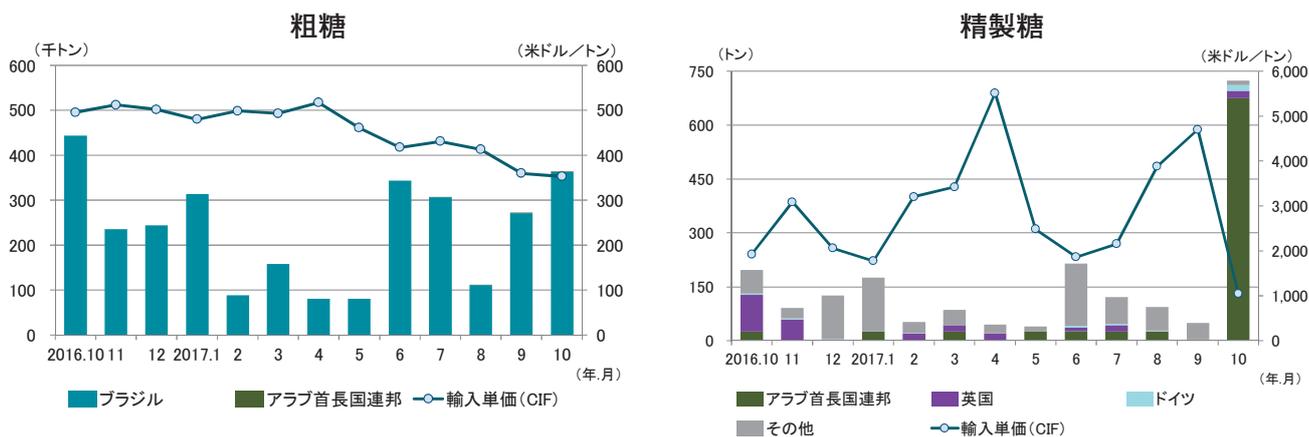
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018]

図3 インドの地域別甘しや糖生産量（10～12月）



資料：ISMA

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：193万ha（前年度比5.5%増）・20万ha（同30.9%増）

生産量：1億3700万トン（同8.3%増）・1100万トン（同42.8%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1109万トン（同9.8%増）

輸入量：577万トン（同57.9%増）

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール（前年度比5.5%増）とやや増加し、生産量は単収の増

加も伴い、1億3700万トン（同8.3%増）とかなりの増加が見込まれている（表4）。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール（同30.9%増）、生産量は1100万トン（同42.8%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別で

は、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1109万トン（同9.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

中国砂糖協会（CSA）によると、2017年10～12月の砂糖生産量は、精製糖換算で232万トン（前年同期比1.2%増）とやや増加した（図4）。このうち、甘しや糖は、広西チワン族自治区での製糖歩留まりの低下などから138万トン（同9.5%減）とかなり減少した。一方、てん菜糖は95万トン（同22.1%増）と大幅に増加している。

砂糖輸入量は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあることもあり、577万トン（前年度比57.9%増）と大幅な増加が見込まれている。砂糖輸入については、2017年5月22日から3年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（枠内関税率15%）

の枠外で輸入される砂糖の関税率が95%まで引き上げられている^(注)。なお、中央政府は2017年10月中旬、2018年の砂糖の輸入割当数量を前年と同水準の195万トンに設定するとともに、枠外数量については、前年比半減の100万トンに制限した。これに対し、国内の精製糖企業は12月中旬、原料糖の供給不足の緩和のため、枠外数量を190万トン程度に拡大するよう、政府に要請している。

(注) 海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

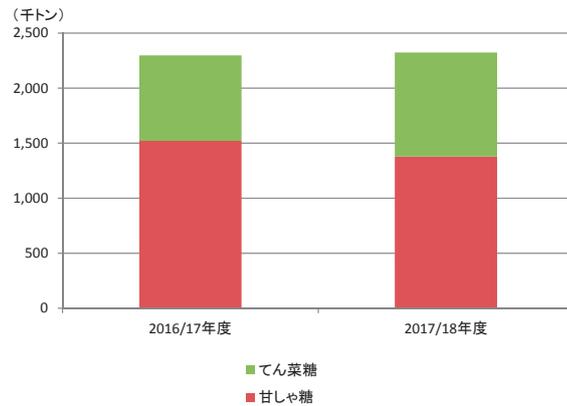
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,760	1,660	1,827	1,927	1,927	5.5
サトウキビ生産量	125,611	117,295	126,522	136,998	136,998	8.3
てん菜収穫面積	139	135	149	195	195	30.9
てん菜生産量	8,000	7,337	7,705	11,000	11,000	42.8
砂糖	生産量	11,474	9,459	10,095	11,087	9.8
	輸入量	5,354	6,199	3,653	5,766	57.9
	消費量	16,600	17,283	16,739	17,500	4.5
	輸出量	64	167	135	80	▲ 40.7
	期末在庫量	7,305	5,513	2,387	1,650	▲ 30.5
	期末在庫率	44.0	31.9	14.3	9.4	▲ 33.5

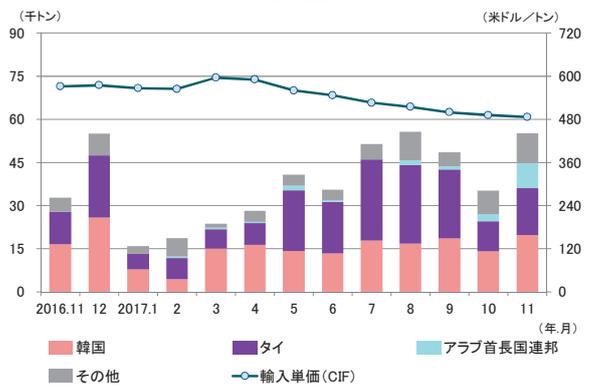
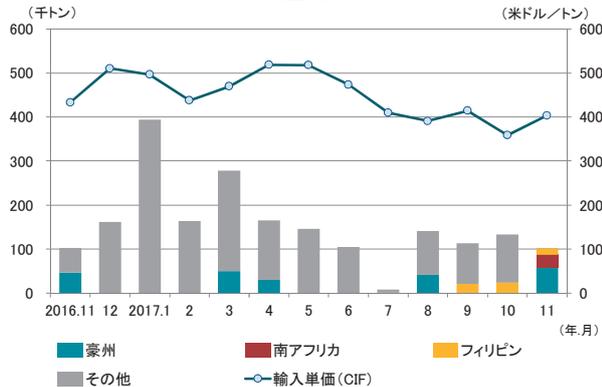
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018]

図4 中国の砂糖生産実績（10～12月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：185万ha（前年度比16.0%増）
生産量：1億4162万トン（同20.1%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：2058万トン（同21.5%増）
輸入量：186万トン（同42.2%減）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

生産割当廃止後初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積が185万ヘクタール（前年度比16.0%増）、生産量は、好天による単収の増加もあり、1億4162万トン（同

20.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表5）。これにより、砂糖生産量は2058万トン（同21.5%増）と大幅に増加する一方、砂糖輸入量は186万トン（同42.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は2017年12月下旬、砂糖を含む農

産物の中長期需給見通しを公表した。これによると、2017/18年度のでん菜生産量は、生産割当の廃止に伴う栽培面積の拡大と単収の増加が見込まれることから、1億3057万トン（同16.8%増）となり、砂糖生産量も精製糖換算で2048万トン（同21.6%増）と大幅に増加する一方、輸入量は125万トン（同45.8%減）と、前年度の6割以下と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されること

から、300万トン（同2.3倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。

現地報道によると、欧州でん菜生産者協会と欧州砂糖製造者協会などの業界団体は、2017年11月下旬、生産割当制度が廃止された10月以降、EUの砂糖市場は不安定な状況にあり、メルコスールとEUのFTA交渉において、メルコスールに対するEU砂糖市場へのアクセスの譲歩に応じるべきではないと欧州委員会へ要求している。

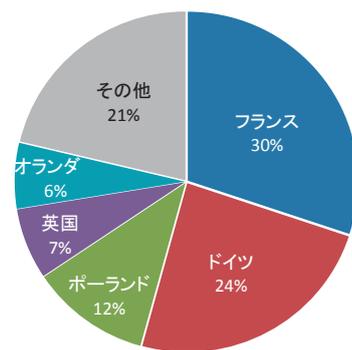
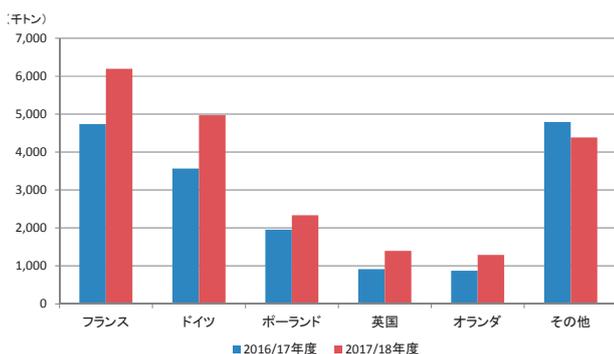
表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,632	1,437	1,592	1,846	1,846	16.0	
てん菜生産量	131,009	105,162	117,948	141,621	141,621	20.1	
砂糖	生産量	19,147	15,011	16,938	20,964	20,578	21.5
	輸入量	3,456	3,750	3,209	2,259	1,855	▲ 42.2
	消費量	19,245	18,719	18,740	18,810	18,810	0.4
	輸出量	1,558	1,506	1,493	1,542	2,800	87.5
	期末在庫量	10,599	9,135	9,048	11,904	9,871	9.1
	期末在庫率	55.1	48.8	48.3	63.3	52.5	8.7

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018」

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017年10月時点での予測値。

注3：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。

注4：生産割合は2017/18年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2018年1月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

豪 州

2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3343万トン（同8.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：488万トン（同1.0%減）

輸出量：370万トン（同5.4%減）

2017/18年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量はやや減少の見込み

2017/18砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、3月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3343万トン（同8.4%減）とかなりの減少が見込まれている（表6）。しかし、製糖歩留まりの向上が見られることから、砂糖生産量は、488万トン（同1.0%減）とわずかな減少に留まると見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い370万トン（同5.4%減）とやや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が2017年12月中旬に公表した2017/18年度の生産予測に

よると、サトウキビ栽培面積は38万ヘクタール（同2.2%増）とわずかに増加するものの、サイクロンの被害に伴い、1ヘクタール当たり収量が88トン（同10.0%減）とかなりの減少が見込まれていることから、砂糖生産量は、470万トン（同2.2%減）とわずかに減少すると見込まれている。輸出量については、前年度並みの399万トン（同0.6%減）と見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は、2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3336万トンと、12月上旬時点の予測から5万9000トン下方修正している。サトウキビの圧搾作業は、10月のクイーンズランド州での記録的な多雨などにより遅延していたが、次年度のサトウキビ生産が後ろ倒しとなるまでの影響はないとみられている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	363	381	393	400	400	1.8
サトウキビ生産量	32,360	34,827	36,500	33,426	33,426	▲ 8.4
砂糖	生産量	4,780	5,052	4,926	4,877	▲ 1.0
	輸入量	170	76	107	110	2.6
	消費量	1,337	1,298	1,280	1,355	5.9
	輸出量	3,687	4,152	3,912	3,700	▲ 5.4
	期末在庫量	1,088	766	609	533	▲ 11.2
	期末在庫率	81.4	59.0	47.6	39.3	▲ 16.2

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018]

タイ

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：154万ha（前年度比9.4%増）
生産量：1億500万トン（同12.9%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1200万トン（同16.5%増）
輸出量：788万トン（同11.4%増）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4%増）、生産量は1億500万トン（同12.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、好天により製糖歩留まりが向上し、1200万トン（同16.5%増）と過去最高に達すると見込まれている。このため、輸出量は、788万トン（同11.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

現地情報によると、砂糖産業関連法の改正案は2017年12月上旬、閣議で承認された^(注1)。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式は存続するが、砂糖の販売割当^(注2)は一部を除いて廃止され、製糖企業は、生産量に応じた在庫量の確保が新たに義務付けられる予定である。政府が設定している国内砂糖価格は廃止される

こととなる。改正後の新制度の施行時期については、当初12月1日が予定されていたが、サトウキビ取引価格の算定方法に関する関係者との協議や国内砂糖小売価格の自由化に係る関連規定の改正などに時間を要している。このような中、政府は1月15日、国内砂糖価格については同日から2年間、現行のサトウキビ・砂糖法を適用しないことで、実質的な価格自由化への即時移行を発表した。

現地情報によると、国内砂糖小売価格については、商務省が法改正後も引き続き監視するとみられる。現在、砂糖小売価格は、1キログラム当たり23.50バーツ（83円〈12月末日TTS：1バーツ=3.53円〉）を上回らないよう管理されており、商務省は毎月、参照価格を公表することで、今後も小売価格が参照価格以下となるよう促すものとみられる。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たりWTO協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTO

に提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局(OCSB)によると、改革案は再度閣議レベルで吟味され、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却された。その後、OCSBは公聴会を実施した

が、関連規程の改正案などに時間を要していた。改革案は、その後閣議へ再提出され、2017年12月上旬に承認された。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

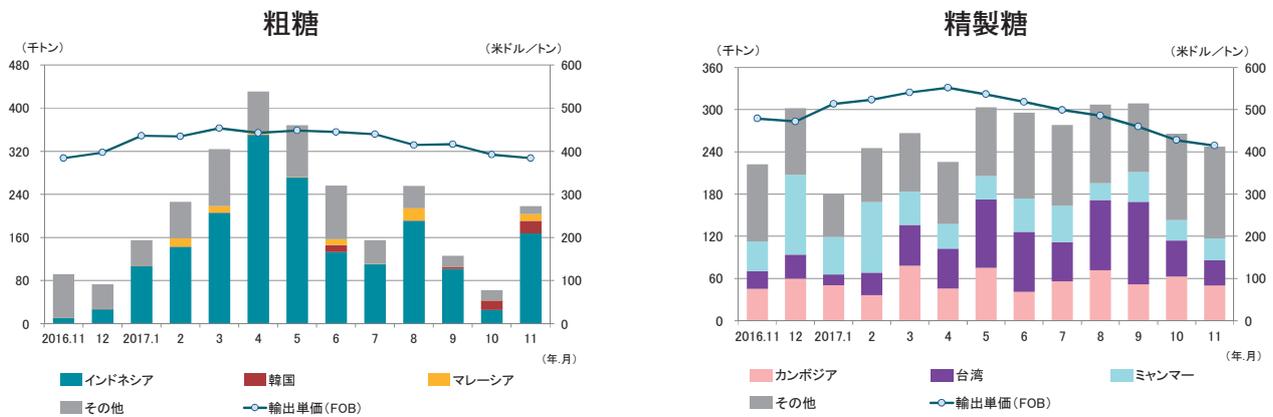
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,403	1,412	1,408	1,540	1,540	9.4
サトウキビ生産量	105,595	94,047	93,000	105,000	105,000	12.9
砂糖	生産量	11,579	10,025	10,299	12,000	16.5
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0
	輸出量	8,071	7,805	7,078	7,882	11.4
	期末在庫量	5,788	4,508	4,228	4,846	14.6
	期末在庫率	165.9	128.8	120.8	138.5	138.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

南アフリカ

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：31万ha（前年度比5.9%増）

生産量：1719万トン（同5.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：180万トン（同10.2%増）

輸出量：30万トン（同37.9%増）

2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、 輸出量は大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、31万ヘクタール（前年度比5.9%増）、生産量は1719万トン（同5.9%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表8）。平年並みの降雨が予想されることから、2014/15年度から続く干ばつ被害から回復しサトウキビが順調に生育することで、製糖歩留まりが向上し、砂糖生産量は180万トン（同10.2%増）とかなりの増加が見込まれている。これに伴い、輸出量も30万トン（同37.9%増）と大幅に増加すると見込まれている。

現地報道によると、業界団体の反対を受けて延期されていた糖類を含む飲料への課税は、2017年

12月上旬、大統領が署名し、2018年4月に施行される予定である。課税対象は、100ミリリットル当たり4グラム以上の糖類を含む飲料で、糖類10グラム当たり0.21ランド（2円〈12月末日TTS: 1ランド=10.61円〉）が課税される。政府は、同措置により年間10億～15億ランド（106億1000万～159億1500万円）の税収が得られると試算しているが、依然として業界団体の反発は強く、南アフリカ飲料協会は、同措置により業界全体の25%の直接雇用が失われるなど、砂糖産業が危機にさらされるとしている。なお、100%濃縮還元果汁飲料や糖類が添加されていない乳飲料については課税対象外となっている。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (10月予測)	2017/18 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	325	302	289	306	306	5.9	
サトウキビ生産量	17,239	17,067	16,234	17,188	17,188	5.9	
砂糖	生産量	2,239	1,728	1,634	1,800	1,800	10.2
	輸入量	474	470	749	475	475	▲ 36.6
	消費量	2,200	2,220	2,190	2,200	2,200	0.5
	輸出量	769	307	218	300	300	37.9
	期末在庫量	633	304	280	55	55	▲ 80.4
	期末在庫率	28.8	13.7	12.8	2.5	2.5	▲ 80.5

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2018]